

2 0 0 6 年 6 月 2 日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
URL : <http://www.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-3664-5697

抗アレルギー剤、呼吸器疾患治療剤など医療用医薬品 5 薬効領域の調査を実施

- 脱毛症治療剤は 2 0 1 4 年に 9 5 億円規模へ (対 0 5 年 1 9 倍) -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部英雄 03-3664-5811)は、抗アレルギー剤、呼吸器疾患治療剤など医療用医薬品 5 薬効領域の疾患概要、患者動向、治療薬剤、市場概況、開発状況などについての調査を行った。その結果を調査報告書「2 0 0 6 医療用医薬品データブック No.3」にまとめた。No.3 では抗アレルギー剤、感覚器用剤、皮膚疾患治療剤、呼吸器疾患治療剤、解毒剤についてまとめた。

< 薬効分類別調査結果の概要 >

1. 抗アレルギー剤 2 0 0 5 年 1, 5 7 1 億円 2 0 1 4 年予測 1, 4 4 0 億円 (対 0 5 年比 9 2 %)

花粉やハウスダストなどに対してアレルギー反応を起こす人は増加しており、患者数も増加している。抗アレルギー剤は、1 9 8 3 年にヒスタミンH₁拮抗剤「ザジテン」(ノバルティス ファーマ)が発売され、急速に市場が形成された。その後、各社が相次いで新製品を投入したことで競合が激しい市場となっている。参入各社は、患者の低年齢化を受け、小児用ドライシロップ剤の開発を積極的に進めている。第 1 世代の抗ヒスタミン剤は既に小児用ドライシロップ剤が販売されている。現在の市場上位ブランドである第二、第三世代の抗ヒスタミン剤でもドライシロップ剤化が、開発の最終段階にあることから、小児用市場でも激しい市場競争が見込まれる。花粉飛散量などに影響される市場であり、各社は今までは消極的だった蕁麻疹や湿疹などを対象に皮膚科領域へも積極的にプロモーション活動を行っている。

2. 感覚器用剤 2 0 0 5 年 1, 8 4 4 億円 2 0 1 4 年予測 1, 9 2 0 億円 (対 0 5 年比 1 0 4 %)

中心となる疾患の緑内障や白内障は、加齢とともに症状が顕在化する傾向にあり、高齢社会の進展により患者数はさらに増加する。アレルギー性眼疾患は季節性アレルギー性の結膜炎患者が多い。眼球乾燥症候群(ドライアイ)は、PC 等の普及により症状を訴える人が増加した。点鼻剤はアレルギー性鼻炎の比較的重症例に使用されることが多い。花粉飛散量の多い年に受診者数が大幅に増加する。点耳剤は処方を中心である中耳炎が、幼児や小児、高齢者に発症するケースが多い。出生数低下による乳幼児人口が減少しているが、高齢者の慢性中耳炎患者により市場は一定規模を維持している。各市場とも、ここ数年、新製品の発売も少なく既存品による激しい競争が続いている。

3. 皮膚疾患治療剤 2 0 0 5 年 7 9 1 億円 2 0 1 4 年予測 9 2 7 億円 (対 0 5 年比 1 1 7 %)

市場の 6 0 % あまりを占める、外用消炎剤・アトピー性皮膚炎治療剤は皮膚炎や蕁麻疹、アトピー性皮膚炎などを対象に市場は安定している。脱毛剤は円形脱毛症や男性型脱毛症などの潜在患者が多いと言われてきた。男性型脱毛症治療剤「プロベシア(万有製薬)の発売を契機に、疾患啓発活動が積極的に行われており、受診患者も増加傾向にある。外用抗真菌剤は、上位ブランドのジェネリック医薬品出現で、市場競争は激しさを増している。2 0 0 5 年発売の短期間で効果が期待される「ルリコン」(ポーラ化成工業 科学)は今後が注目される。

4. 呼吸器疾患治療剤

2 0 0 5 年 2, 4 7 1 億円 2 0 1 4 年予測 3, 3 1 6 億円 (対 0 5 年比 1 3 4 %)

COPD* に対する認識が高まってきていることから、潜在患者数、受診患者数共に増加している。医学会、行政が禁煙の重要性を国民に認識させようとしていることや、たばこへの増税により禁煙する人は増加しており、禁煙補助剤に対する注目度は増している。COPD 治療剤と、禁煙補助剤の 2 領域は、更に啓発活動を行うことによ

り新規受診患者に取り込むことが可能である。

*COPD・・・慢性気管支炎と肺気腫症を総称した病名。慢性閉塞性肺疾患。気管支や肺胞など、肺の組織に慢性的な炎症が起き喀痰、気管支のむくみ、肺胞な破壊が起こる病気で、その原因の90%以上は喫煙とされる。

5.解毒剤 2005年 20億円 2014年予測 22億円(対05年比 110%)

対象患者は、家庭用品や医薬品の誤飲による中毒が中心で、いわゆる事故による患者が最も多い病態である。その他には工場など化学物質を取り扱う場面での中毒などがある。解毒剤市場は古い薬剤を中心に構成されてきた。ここ数年2～3品目の新製品が販売されたが、中毒患者に対して薬物療法は二次的対処となり、解毒剤市場は20億円程度と停滞している。製薬企業はプロモーション活動を殆ど行わない状況である。

<注目疾患用剤>

緑内障治療剤 2005年 610億円 2014年予測 670億円(対05年比 110%)

40歳以上の6%、70歳以上の13%が緑内障患者であるとされ、高齢社会とともに患者数は年々上昇している。緑内障治療剤は、1990年代半ばから新製品が次々と発売され、激しい販売競争が展開されている。プロスタグランジン製剤「キサラタン」(ファイザー)が医師の評価も高くシェアトップを占める。

脱毛症治療剤 2005年 5億円 2014年予測 95億円(対05年比 19倍)

脱毛症には、男性型脱毛症、円形脱毛症、壮年性脱毛症といった種類がある。中心は円形脱毛症で、患者数は1,200万人程度と言われてきた。円形脱毛症はストレスや食事などが要因で一過性の症状という認識が患者に強くあり、医療機関で受診するケースは少ない。最近注目を集めている加齢に伴い髪の毛が抜ける・薄くなるなどの症状がでる男性型脱毛症は、10人に1人がなるとされる。遺伝や加齢によるものと諦めるケースが多いが、男性型脱毛症の治療を啓発し、潜在患者を掘り起こす事で市場の成長が期待されている。2005年に男性型脱毛症をターゲットにした「プロペシア」(万有製薬)が発売された。日本初の脱毛症治療剤であり、今後の動向に注目が集まる。

COPD治療剤 2005年 222億円 2014年予測 770億円(対05年比 3.5倍)

潜在患者に対して治療中の患者は少ないため、疾患への啓発活動を行ない、受診させることが市場拡大の鍵となる。疾患原因の一つとされる喫煙者数は減少傾向にあるものの、高齢化により、今後も患者数は増加することが見込まれる。また、COPDガイドライン(日本呼吸器学会)も徐々に浸透度が高まっている。今後更に改訂が進むことで、一般医の処方機会も更に増え市場拡大が期待される。

禁煙補助剤 2005年 14億円 2014年予測 32億円(対05年比 2.3倍)

喫煙は疾患リスクを高めることから、行政は医療費抑制策の一環として禁煙施策を強化しており、今後も禁煙治療に訪れる患者数は増加していくことが見込まれる。保険適用(2006年4月)による受診者増加と共に、7月にはたばこへの増税という2つの要因から、2006年には禁煙治療受診者数は10%超伸びると予測される。国内で処方される唯一の薬剤「ニコチネル TTS」(ノバルティス ファーマ)は、貼付剤であり安全性が高い事が特徴である。今後の禁煙実行者数の増加に伴って市場も拡大すると予測される。

<調査対象>

1.抗アレルギー剤(外用剤、点眼、点鼻、点耳は除く) 2.感覚器官用剤(緑内障治療剤、その他眼科用剤、点鼻・点耳剤) 3.皮膚疾患治療剤(外用抗菌剤、外用消炎剤・アトピー性皮膚炎治療剤、褥瘡治療剤、脱毛症治療剤) 4.呼吸器疾患治療剤(喘息治療剤、COPD治療剤、鎮咳・去痰・呼吸促進剤、消炎酵素・総合感冒剤、禁煙補助剤) 5.解毒剤

<調査方法>

富士経済専門調査員によるヒアリング調査および各種統計資料等による文献調査

<調査期間>

2006年3月～2006年5月

以上

資料タイトル:「2006 医療用医薬品データブックNo.3」

体 裁 : A4判 293頁

価 格 : 160,000円(税込み 168,000円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第3事業部

TEL:03-3664-5821 (代) FAX:03-3661-9514

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

URL:<https://www.fuji-keizai.co.jp/>